

Part

ストーリーを活用した 基本文の導入



中島 真紀子
(筑波大学附属中学校)

内容解説資料は
こちらから
ご覧いただけます



Small TalkからScene 1につなぐ

新しいNEW CROWNのPartのSmall TalkからCheckの基本文導入につなぐ指導方法を考える。新しいNEW CROWNでは、Lessonを通して内容がつながっており、Scene 1の登場人物の会話や発表から基本文が取り出されているため、ストーリーを通して基本文を導入することが可能となっている。そのため、Scene 1の続きであるScene 2の内容はもちろんのこと、Lesson全体を踏まえながら導入を行いたい。ストーリー展開を活用することで、生徒は教科書の題材に興味を持って取り組むことができる。題材と生徒の距離を縮める工夫としては、例えばSceneを扱う前に、題材に関連した教師自身の経験を語ったり、Partの冒頭にあるSmall Talkを活用したりしたい。その際、ティーチャートークの中に基本文を盛り込み、生徒に「どんなことを言っているのかな」と想像させながら聞かせることで、効果的なインプットとなるよう心がけたい。

以下、2年Lesson 5 Part 1 Scene 1の授業の流れを示す。

ねらい：(show+A+B)の形式と意味を理解し、実際に使うことができる。
Scene 1の場面・状況を理解する。

授業の始まりからSmall Talkまで

教師が海外旅行のお土産でもらったドリームキャッチャー（写真）を取り上げ、導入する。

〈発話例〉

T: To begin with, I will show you a picture. Look at this. What is it?

Ss: なにあれ？ / I don't know. / ドリームキャッチャー？

T: Yes. This is a dream catcher. It's a souvenir from my friend. She bought me this in Canada. (くり返す)



When she gave me this dream catcher (くり返す), I was very happy. My friend told me about her trip to Canada. Now I really want to go to Canada.

Q1. Do you know anything about Canada?

Q2. Do you want to go to Canada?

Q3. Which country do you want to go to?

※Checkの基本文に関連する文（下線部）は、ゆっくりはっきり、くり返し伝える。

※世界地図を見せるなど、Visual Aidsを効果的に活用する。

※最後の質問(Q3)はSmall Talkのトピックである。この質問では生徒同士でチャットをさせ、その内容をクラスで共有する。Q1とQ2に関しては、生徒に投げかけるだけでもよいし、何人かの生徒を指名して答えてもらうなど、生徒とのインタラクションに使用することもできる。

Small Talkの活動

Small Talkで、できるだけたくさんの生徒に、行きたい国とその理由とを発表させ、世界地図を見ながら挙げた国の位置を確認する。生徒からオーストラリアが挙げられた場合は、そこからScene 1につなげる。もし出なかった場合にはケイトの絵を見せ、“Does anyone want to visit Australia? Kate is from Australia.”とつなげてよい。

〈発話例〉

T: S1 and S2 want to go to Australia. Do you remember that Kate is from Australia?

Ss: Yes.

T: Actually, Kate went back to Australia during the summer vacation.

Scene 1からCheckにつなぐ

ここでは、①Checkの基本文の確認と練習の後、Scene 1の内容に入るパターンと、②Scene 1の内容理解の後、Checkの基本文の確認と練習を行うパターンの2種類を紹介する。

①Checkの基本文の確認と練習の後、Scene 1の内容に入る

〈発話例 (Checkの基本文の確認と練習)〉

T: Kate visited her aunt (Kate went to her aunt's house) and went sightseeing every day. Now she is showing Riku some pictures.



2年 Lesson 5 Part 1 Scene 1



Part 3 Side Story

ケイトと陸の会話を聞いて、ケイトが写真を見せている様子がわかる文を聞き取ってみよう。(Scene 1の音声を聞く)
ケイトは何と言って陸に写真を見せていたかな？(必要があれば、複数回聞かせる)

Ss: ... show you ... picture ... / I'll show you some pictures.

T: That's right. Kate said, "I'll show you some pictures."

※ここで、ケイトが陸に写真を見せているScene 1の絵とCheckの基本文を見せて、<show+A+B>のform(形式)やmeaning(意味)を明示的に説明する。生徒の実態に合わせ、ティーチャートークで示した<buy(give)+A+B>も一緒に示したい。説明した後は、Exerciseを活用して練習を行い、形式や意味の理解に留めず、それらの文が実際にどのように使われるのかを生徒に体験させる。練習の後はScene 1の内容理解へと進む。

【発話例 (Scene 1の内容理解)】

T: OK, everyone. (Scene 1の絵を見せながら) Kate said, "I will show you some pictures." Then Kate is showing Riku some pictures. When Riku saw the pictures, he said, "Oh!" Riku was surprised. Why was he surprised? (Scene 1の音声を聞かせる)

T: Why was Riku surprised? (*)

Ss: Because Kate was wearing a coat and gloves.

T: That's right. Why was she wearing a coat and gloves?

Ss: Because it was the middle of winter. / 冬だから!

T: Kate visited Australia during the summer vacation. It was summer in Japan. But it was the middle of winter. Why?

Ss: 日本と季節が逆だから!

T: That's right. The seasons are opposite. Did Riku know about that?

Ss: Yes. / 知ってる。

T: Yes. Riku said, "Oh, that's right." 「そうだよね。/ そうだった。」 So he knows that the seasons are opposite.

※ここで生徒はすでに一度会話を聞いている。"Why was he surprised?"の質問に生徒が答えることができれば、確認のために音声を聞かせる。答えられないようだったら、必要に応じて複数回聞かせる。

※ここでは会話の内容理解を重視するので、生徒の実態に応じて日本語でやり取りしてもよい。また、必要に応じて音声を複数回聞かせたい。Checkの基本文の導入と題材の導入が重要な目的であるため、会話文を詳細に説明する必要はないが、教師と生徒とのインタラクションを楽しみながら内容を理解しているかどうかを確認したい。その後、Scene 2へと進む。

②Scene 1の内容理解の後、Checkの基本文の確認と練習を行う

T: Now Kate is showing Riku some pictures and talking about her trip to Australia. What did she do in Australia? Let's listen to their conversation.

(Scene 1の音声を聞かせる)

T: What did Kate do in Australia?

S3: She went to her aunt's house in Sydney.

S4: She went sightseeing every day.

T: That's right. Then, Kate said, "I'll show you some pictures." Now she is showing Riku some pictures. (Scene 1の絵を見せる)

When Riku saw the pictures, he said, "Oh!" Riku was surprised. Why was he surprised?

(必要に応じて、音声をもう一度聞かせる)

T: Let's listen to their conversation one more time.

※日本語でやり取りしてもよい。この後は、左段(*)以降のやり取りを続け、内容を確認したら、Checkの基本文の確認と練習に進む。

Part 3 Side Story の活用法

次にPart 3 Side Storyの活用法を紹介する。まずは、Side Storyの絵を見せながら、場面・状況を導入する。前時に扱ったPart 2の内容を踏まえて導入するとよい。導入後、ツアーガイドのベティーと芸術家のバランガさんの会話を聞き、質問(Q)「会話のあと、バランガさんは何をするか」につなげたい。

ねらい：〈how+to+動詞の原形〉の形式と意味を理解し、実際に使うことができる。
Side Storyの内容を理解する。

〈発話例 (場面・状況の導入)〉

T: Riku is joining an online tour of Uluru. Now, Betty is interviewing Mr. Barunga.

T: Mr. Barunga is Anangu. Who are the Anangu?

Ss: Native people in Australia.

T: Right. Something is very important for the Anangu. What is it?

Ss: Uluru.

T: Yes. Why is it important?

Ss: Because it is a sacred place for the Anangu.

T: That's right. Now, as I said, Betty is interviewing Mr. Barunga about his Anangu art. He is an artist. Riku has a chance to ask some questions. If you were Riku, what questions would you want to ask?
(Side Storyの絵を見せる)

※アナング族の人々に質問できるとしたらどんな質問がしたいか生徒に投げかける。前時に扱った内容が出てくるとよい。

質問例：Do you live near Uluru? / Why did you become an artist? / Are there many artists of Anangu art?

次に、絵を見ながら会話を聞き、「会話のあと、バランガさんは何をするか」の質問(Q)を投げかけ、考えさせる。

〈発話例 (会話の内容理解)〉

T: Betty is asking Mr. Barunga about Anangu art. Listen to their conversation.

(絵を見ながら、会話を聞く)

T: What will Mr. Barunga do after the conversation?

Ss: 絵を描く。 / He will paint a picture.

T: That's right. How did you know that he will paint a picture?

(これから絵を描くってなんでわかったの?…こんなふうに言ってたね。)

※生徒が質問(Q)を理解できていない様子の場合、音声をもう一度聞かせる。日本語でやり取りしてもよい。

※発話例の最後の投げかけに対する答え(I'll show you how to paint with them.)が生徒の中から出てこない場合を想定し、提示してしまってもよい。

続いて〈how+to+動詞の原形〉のform(形式)やmeaning(意味)を明示的に説明する。説明した後は、Exerciseを活用して練習を行い、形式や意味の理解に留めず、実際にどのように使われるのかを生徒に体験させる。

Exerciseで練習させた後は、もう一度Side Storyに戻り、〈how+to+動詞の原形〉を使った活動を行う。例えば、以下のようなスライドを用意し、(日本語を示して)「バランガさんに伝えてみよう」と生徒に呼びかける。「バランガさんのアートスタジオへの行き方/アナングアートの描き方を教えてください」などの質問が考えられる。



バランガさんのアート(作品)の買い方を教えてください。

もちろん。買い方を教えてあげるよ。



私のおすすめポイント

令和7年度版NEW CROWNの私のおすすめポイントは、文法提示です。各レッスンのScene 1にターゲットとなる文法が提示され、導入の大きなイラストでは、どのような場面でその文法が使用されるかが、一目でわかるようになっています。教科書にある質問の答えを生徒に考えさせることで、その文法の意味を推測させたり、一緒に確認したりできます。イラストの下には基本文が示され、レッスン末のLanguage Focusには、その文法の形式が詳しく示されています。一般に、文法知識の獲得のためには、使用(Use)、意味(Meaning)、形式(Form)の3つの要素が重要だと言われています。新しい教科書では、Use → Meaning → Formの最適な順序で新しい文法を提示することができ、無理のない形で文法への気づきを促すことができる流れになっています。



田中 武夫
(山梨大学)

NEW CROWNとわたし